

資料 3

戸籍と住民基本台帳 との連携について

戸籍法上の届出等により判明した情報を住民基本台帳へ反映することについて

○ 連携の趣旨

- ・ 住民の届出義務の軽減
- ・ 住民票の記載内容の正確性の確保

○ 住民基本台帳に反映される手続

I 記載

(例) 出生した者について出生届
→住所地において、その者に係る住民票を新たに記載

II 消除

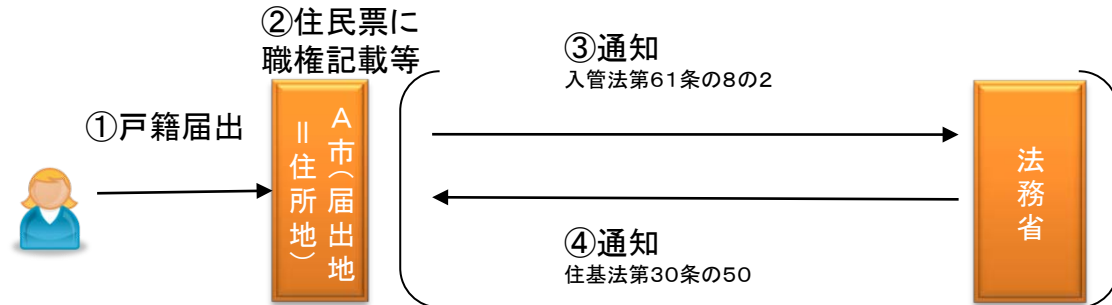
(例) 死亡した者について死亡届
→住所地において、その者に係る住民票を消除

III 記載の修正

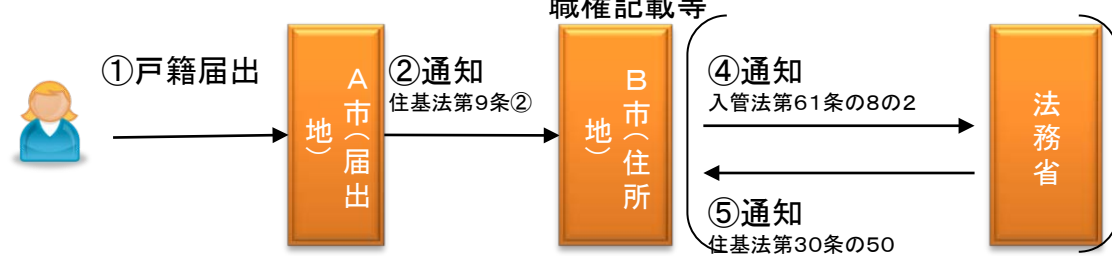
(例) 婚姻した者について婚姻届
→住所地において、その者に係る住民票の記載事項のうち、続柄を修正(同居人→妻 など)
(婚姻に伴い新たな市町村へ転入する場合は、別途転出・転入の届出をする必要あり)

I ~ IIIにおける手続のイメージ

○ パターン1 (届出地=住所地)



○ パターン2 (届出地≠住所地)



○ 戸籍に関する届出等又は住基法第9条第2項通知に基づく住民票の処理について

通知の運用も含め、原則として、日本人と同様の取扱いとしてはどうか。ただし、外国人については、以下の点に留意する必要があるのではないか。

- ・ 戸籍法上、外国人に適用されない届出がある(入籍届、分籍届、転籍届、就籍届、復氏届、氏名の変更届)。
- ・ 帰化届・国籍取得届及び国籍喪失届・国籍喪失報告があった場合は、住民票の記載の修正として取り扱う。
- ・ 住民票に記載等が必要となる戸籍の届出については、氏名による同一人性確認の観点から、①戸籍の届書にカナ氏名又は漢字氏名(日本の正字に限る)に加え、アルファベット氏名の付記をするよう届出人に協力を求めることとする、②届書における漢字氏名(日本の正字に限る)、アルファベット氏名は在留カード、特別永住者証明書等の記載に倣うこととする。住基法第9条第2項通知には届書に付記されたアルファベット氏名を含めることとする。